

秋田の山水と土着の詩境

「畠山義郎全詩集」刊行に寄せて①

亀谷健樹



かめや・けんじゅ 29年生まれ。太平寺前住職。詩誌「密造者」編集同人、日本現代詩人会会員。北秋田市。

みちのくの初夏。フジの花や
ヤブアマリが真つ盛りだ。今年
は特にのっそりと遅い季節の足
どりである。遅まきながら5月
5日に『畠山義郎全詩集』が出
版された。本県を代表する現役
詩人の詩的業績を1冊にまとめ
たものである。

言うなれば「こどもの日」を
祝う、こいのぼりがはためく天
空から、満を持して舞い降りた
感じの快挙であると思ふ。全詩
集の出版は本県の詩人関係は言
うに及ばず、全国的にも記念す
べき出来事であろう。その理由
を三つ挙げたい。

一つは、畠山義郎さんの桁外
れの詩歴の長さである。192
4(大正13)年に旧合川町に生
まれた畠山さんは、41(昭和16)

年、つまり大戦の前から詩作を
始め、今日に至るまで73年にわ
たり詩業を続けられてきた。本
県ではもちろんトップであり、
全国的にもまれな長さである
う。この間、絶えず詩を書き続
けてきたのだ。

二つ目は、畠山さんは戦時中
に詩誌「詩叢」を発行するなど、
特高警察にいらまれてもお詩作
し、同人誌を出し続けたこと
である。あしき時代の貴重な証
人としての詩集も盛り込んでお
り、節を曲げず、創作の自由を
貫いたことを高く評価すべきで
ある。

三つ目は、合川町長など畠山
さんの政治経歴が44年の長きに
わたることである。社会福祉の
ほか全てにおいて、独創的な発
想を持ちユートピア実現を期し
た先覚者の詩人でもあった。そ
のエッセンスが詩のみならず、
エッセー、論説などにも盛られ
ている。

畠山さんの全詩集を編むに当
たり、編集委員たちの手で畠山
家の書庫の資料を整理すること
になった。その過程で、偶然に
も手書きの私家版詩集『飄旅』

とても17歳で詩を書き始めた
ばかりの青年の作とは思えぬ非
凡さがある。すでに日本の未来
への洞察も見られ、詩人として
の卓越した予知能力がうかがわ
れて興味深い。

この後一時期、文語調の作品
が続くが、どれも格調高く読み
応えがある。総じて季節の移り
変わりを鋭い感性でとらえ、言
葉は硬質だが、情感のぬくもり
があふれる。

思つに畠山さんは、郷土の秋
田にどっぷり漬かって、秋田な
らではの風土
性に、生涯を
懸けて取り組
んだ詩人では
ないだろう
か。四季と山
水と土着の人
間が、見事に
溶け合った詩
境は、時間を
超える表現と

が見つかった。
次に紹介するのは「飄旅」の
2番目にあり、全詩集の巻頭を
飾っている「煙」という短詩で
ある。

煙吐くところ／常に生命あり
／山野に立つ煙／重工業の大
煙突より／天を覆う煤煙／煙
は生きている／あきらかに
人の／こころさしをいつい
で
――一八、九、二八――

なった。都会派詩人には、まね
のできない言葉の流儀であろ
う。

ところで、畠山さんの地元で
は畠山詩を「言葉が難しく理
解できない」と評価していた。
だが最近の作品は随分ぐだけて
平明さを増してきた。ごく平凡
な日常茶飯事を題材にしている
のである。作品集の挿尾を飾
る、秀れた一編を読んでいた
きたい。

「田の水」

おどりあがって／はしり去る
もの／田へ／急ぐ／水／方
形に布きひろげられた／青田
のじゅうたん／直角に急ぐ
／あとからあとから／もみ合
いながら／身をおどらせて
水門から／這いあがる／こ
の水音は／胎内で聞いたおと
／この水音は／父と母／そし
て／じいさまはあさまから
／継承された血と相伝のおと
／人影のない田の面をはしる
／水のいのちに賛辞をおくる
／遥かな山裾に／正確な音階
／郭公の声

ここに描かれた詩情は「わが
秋田の原風景」であろう。日ご
ろ何気なしに見過してしま
る「水の生態」。ここでは流転す
る「いのち」そのものを活写す
る。胎内で聞いた「おと」、父
祖からの血と相伝の「おと」は、
この水音だという。さらに「水

のいのち」を褒めたたえる「郭
公の音」。まさに絶唱といえよ
う。

この他紹介したい詩はたぐさ
んある。とにかく10冊を数える
詩集と「詩集未収録詩篇」「ま
さひでもあぐら」「短唱 戦争
そして孤独の春」「校歌等の作
詞」「主要な詩評論」など、詩
の分野だけでも枚挙にいとまが
ない。

20年前、畠山さんと私は「北
東北子どもの詩大賞」を立ち上
げた。その後休みなく継続して

いる。趣旨文にある「子どもの
未来を予知する心を育て、夢と
希望のある人間形成を進め、北
東北固有の文化水準を高める」
は氏の案文である。
現代詩の本来の在り方を探
り、その神髄を次代に引き継ぐ
ためにも、子どもの詩運動をせ
ひとも拡充しなければならぬ。
そのためには詩を書く魂、いわ
ば秋田の詩魂を秘めた「畠山義
郎全詩集」を、多くの皆さんに
読んでほしいと切に願うもので
ある。

文

化



刊行された畠山義郎全詩集